http://www.furousen.com

不老仙タイム No.53

HOUTOKU FUROUSEN TIME

株式会社ホートク食品 〒899-5431 鹿児島県姶良市池島町27-16 0120 0120-05-6040 FAX 0995-65-6041

「がん患者は玄米を食べなさい」の著者
伊藤悦男先生を訪問

【不老仙のために実験してくださった？】

不老仙タイムno.５２で「がん患者は玄米を食べなさい」の本の紹介をしました。私たちは、この本を書かれた琉球大学名誉教授の伊藤悦男先生は不老仙のための実験をして下さったのではないか!と感動し続けていました。「先生はきっと不老仙のことはご存じないでしょう。不老仙を資料とともに送ってみましょうよ」と相談し、「どうぞ先生の手元に無事届きますように」と祈る思いで、勇気を持って商品と不老仙タイムなど資料をお送りしました。

【嬉しい返事に体が震え、涙が出た】

１か月過ぎても返事が来なかったので、やっぱりだめだったのねと諦めていました。ところが、諦めていた先生からのご返事が届いたのです！　あまりの嬉しさに手が震え、手紙を読むうちに感動で胸が一杯になり泣いてしまいました。先生は健康上の都合で返事が遅れたこと、商品とともに届いた資料に目を通して大変驚いた、自分が研究した当時に描いた製品イメージを数倍超える優れた製品がすでに作られていたと驚き感動した、とのお手紙でした。(お手紙を裏ページに紹介しています)

【苦労が報われる思い】

良いものと分かっていても、科学的で数値的な裏付けができない私たちにとって歯がゆい思いが続いていました。それだけに、長年の病理学の実験・研究に携わって来られた先生の孤独な中でのご努力に、深い深い感謝で、これまでの苦労が報われる思いです。開発者の故出木場森蔵が健在なら、きっと先生の元へ飛んで行ったことでしょう。

【沖縄へ飛ぶ】

私たちも早速沖縄へ飛んで行き、先生を訪問しました。始終ニコニコの先生は、大学教授と言う硬いイメージを吹き飛ばして下さいました。先生はがん治療を進めたくて実験を始めたこと、キノコの実験から穀物に進み、その中でも玄米に注目し、玄米に含まれる二つの成分(ＲＢＡ、ＲＢＦ)が強力な抗がん性を持つことを世界で初めて発見したこと、学術書には発表したが、一般向けの本では取り上げられなかった、３０年近く経ってやっと正式に学界でも発表され始めたかと感慨深い、と話されました。(詳しくは中ページをご覧ください)

不老仙は煎ってあるから素晴らしい！

焙煎しないと↓有効成分は出ませんよ！

琉球大学で教鞭を取り研究を進めていた先生は、医療の進歩の裏でがんが増え続けていることに心を痛め、がんの治療を進めたいと４０～５０年前から抗がん成分研究を始められました。最初はキノコの研究で、沖縄独特のものを探したが見つからず、昔からよいとされた穀物に目をとめたそうです。穀物の中にがんを抑えるものはないかと、米、麦、ハトムギ、ヒエ、アワ等を試されて、煎った玄米から抗がん成分を発見されたそうです。今回は、発見した抗がん成分について、もう少し詳しく、しかも大事なことを指摘してくださいましたのでご紹介します。

【煎ることで、栄養分は壊れない】

「焙煎することで栄養素が壊れるのではないか？」「焦げて変質するのではないか？」との質問が寄せられるが、その心配は全くない。焙煎することによって初めて抗がん性のある成分ができるのだ。焦げるくらい焙煎してやっと有効成分が出た。生のときよりα－グルカンの分子が、熱でくっついて大きくなるから効果もさらに大きくなる。

【不老仙は焙煎してあるから優れている】

不老仙は原材料を焙煎してある。これが素晴らしいことだ。そのことによって、酵素分解したような状態になっているから、消化もよく、抗がん成分がたくさん出ている。このことを知って嬉しくさえ感じた。

【玄米に発見したすごい抗がん力】

大学での動物実験をした中でハトムギが一番、玄米が２番目に抗がん物質が多く出た。糠もグツグツ煮てみたがダメだった。しかし、昔から体によいと言われている玄米粥に注目し、煎ってから炊くことに気付いた。玄米の持つ多糖類を抽出するには、硬い細胞膜を高圧高熱処理することが有効である。

がん細胞がブドウ糖を取り込んで発熱する様子を検知する微少熱量計を自分自身で開発した(右上の写真)。がん細胞の各種代謝阻害剤に対する発熱反応を測定し、米国がん学会誌に投稿し掲載された。この方法によってＲＢＦの抗がん性が熱代謝に関係したアポトーシスであることが証明できた。もう一つの有効成分のＲＢＡは、免疫を高める効果を持った多糖類であった。

ＲＢＡ⇒免疫を刺激する。がんだけでなく、体全体の免疫力を高める。がん予防になる。

ＲＢＦ⇒がんが自然死する仕組みのアポトーシスを出す力を持っている。

アポトーシス⇒枯葉が自然に色づいて枯れて落ちるような「自然死」のこと。

【がんを死滅させる力を持つＲＢＦ】

とりわけ大事なのがＲＢＦである。ＲＢＦはがんを「自然死させる力」を持っている。

がん細胞が死滅する形は、細胞壊死とアポトーシスの２種類である。細胞壊死は循環障害などの栄養不足が主な原因で、血液供給が悪く酸素不足の時に起こる。アポトーシスとは、木の葉が秋になると自然に枯れて落葉するように、細胞の寿命

発熱測定。反応用のステンレスカップを準備しているところ(左)。次はカップを熱量計の中にセットする行程(右)。セッティングを終わり、測定開始の状態。

が尽きて死ぬこと。だから、がん細胞を自然死させるには、がん細胞に、次に述べるようなアポトーシスを多く起こさせればいい。

【なぜ玄米成分は、がん細胞を死滅させるのか】

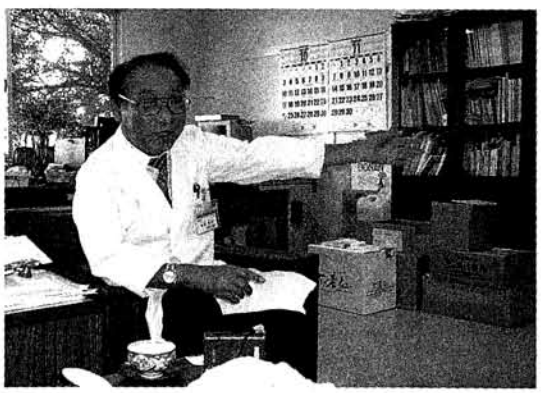
がん細胞は増殖のとき特殊なエネルギーを出す。がん細胞は正常な細胞より数倍も早く、多くの糖をエネルギーとして取り入れて細胞を分裂させている。がん細胞は糖を分解してエネルギーを生産しており、ＲＢＦにはがん細胞がエネルギー代謝をするとき、そのエネルギーを無駄な熱に変えてしまい、増殖に必要なエネルギーを作らせない作用がある。このことでアポトーシスが引き起こされる。がん細胞が生きていくために必要なエネルギーを熱に変えて放出し、無駄に使わせることで、エネルギーを補給できなくさせることで、がん細胞が死滅する。がん細胞が死んだ後は、掃除屋の大食細胞(マクロファージ)がたくさん出現してその死骸を食べてしまい、後には線維細胞の増殖だけが起こる。

まだエネルギー代謝の特性を利用したがんの治療法や治療薬は開発されていない。しかし増殖エネルギー代謝はがん細胞だけでなく、正常な細胞を健康に保つためにも不可欠である。がん細胞だけの糖代謝を選択的に遮断し、正常な細胞のエネルギー代謝はそのまま維持させる方法がまだ見つかっていなかった。その方法が、玄米成分のＲＢＦによるものであることを突きとめた。

ＲＢＦの優れた特徴は、正常な細胞のエネルギー代謝には全く害を及ぼさないことであり、がん細胞だけを死滅させて、それ以外の細胞を健康な状態に維持させることである。この作用機序は、世界的にも知られていなかったので、国内特許と国際特許を取得した。

【これから！というときに、バブル崩壊と行政の壁の前に薬化を断念】

これでやっとがん細胞だけを死滅させる薬が開発できると、企業との共同開発を始めた。ＲＢＡはサッポロビール研究所が担当し、優れたバイオ技術で試作品製造に成功し「ＲＢＳ」と命名した。ＲＢＦはダイセル化学工業との共同開発で試作にも成功した。しかしバブル崩壊で、企業の新製品開発の資金が厳しい経済環境に陥ってしまった。さらに、当時の厚生省(現・厚生労働省)が、新しい抗がん剤への拒否反応を示した。理由は「これまでの抗がん剤のカテゴリーにない新しい作用機序の抗がん剤は、申請を認めることはできない」、前例がないからという理由。これでは科学の進歩は望めない。



【毎日の食卓で活かし、がん予防と延命を】

しかし、医薬として開発することだけが社会に役立つことではない。薬にすると高価になるが、玄米のままを奨励する方が経済的で有用な方向性だと考えた。煎った玄米が、抗がん成分の多いものである事実を世間の人々に伝え、毎日の家庭での食卓で活かしてもらうことができれば大きな意義を持つ。がんの緩和ケアと玄米食治療を組み合わせれば、よりよい延命効果が期待できるのではないかと思っている。

琉球大学名誉教授の伊藤悦男先生からのお手紙の一部を、先生のご了解を得てご紹介します。

出木場 和子 社長様

この度、出木場社長さまにはご丁寧なお手紙と共に御社の優れた製品と多くの資料をお送り下さいまして本当に有難うございました。

お送り下さいました「不老仙」や「ＵＰ－10」につきましては、私は今まで知識が無かったものですから、まずは多くの資料に目を通させて頂き大変驚きました。

私が大学で研究した当時に描いた製品イメージをはるか数倍も超える優れた製品が既に作られていたのだという驚きと感動さえ感じたことでした。

他社にも玄米を生かそうとされた製品は幾つか販売されていますが、これぞ、私の考えに最も良く一致する進んだ製品だと思います。特に素晴らしいのは、製造工程の真っ先に素材を適度に煎るという処理をなされている事です。

私が本を出したとき以来、最も多く受ける質問は、玄米を煎る事への質問が多く、加熱で壊れる栄養成分があるのではないか？との質問がなされます。私はそのような質問に対し、煎ることで初めて抗がん性のある成分が出来るのだという説明をしています。これらは事実、私自身が実験で発見したものでした。そして加熱処理に代わる処理のため酵素醗酵をさせて加工製品化したものもあります。その意味でも御社の製品はまず焙煎処理がなされている事を知り嬉しくさえ感じました。

平成22年10月5日　　伊藤悦男

訪問記・トピックス

（詳しくは中ページをご覧ください）

伊藤先生が新しく会社も立ち上げていらしたことを聞き驚きました。沖縄では肺の病気が多く、沖縄の粒子の細かい埃っぽい泥灰岩の土が肺の病気の原因ではないかと思い、この土を研究しているうちに保湿性の高いことに注目し、この土を使った危険性のない安全なヘアーシャンプー、顔パック、マッサージジェル、歯磨き粉等の製造・販売もされているとお聞きしびっくりしました。

さらに、先生の部屋にキーボードが置いてあり、私達の要望に応えて演奏もしてくださいました。楽器の演奏だけでなく、何と大学では合唱団の指導もして来て、合唱ではテノールだとか。先生が奥深く幅広い方であることにも再度驚き、感動しました。先生には、十分な健康状態ではなかったのに、長時間もお付き合い頂き、本当にありがとうございました。